

## 今年の教区の目標

神に希望の錨をおろすなら  
すべては祝される

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バートン司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2025年1月1日 (毎月1日発行)

カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第794号 (1月号)

## 新年司教メッセージ

# 『希望の巡礼者』として漕ぎ出そう！

ウェイン・F・バートン司教



あけましておめでとうございます。  
新たな年を迎え心あらたまるこの時、新たな歩みをはじめににあたつて、今年の教区目標とともに特別な祝福を送ります。

## 神に希望の錨をおろすなら すべては祝される

吹き荒れる嵐の中でも、荒れ狂う波に翻弄されても『希望の巡礼者』として神の祝福のうちに主によって、主と共に、主の道をまた新たに歩み始めましょう！

人生は時の旅路、私たちは時の旅人です。この世に生を受けたその瞬間から、すべての人は時を経てゆく旅人として存在します。誰一人時の流れの外にいる人はなく、どんな人も生きていく限り刻々と流れ去る時間の中で、外的にも内的にも常に変化してゆく状況に置かれているのです。そのような人間存在のあり方は人はよく船旅にたとえてきました。  
順風の時、逆風の時、荒れ狂う高波の時、穏やかな風の時。どの人生にも良いと思える時があれば、最悪と感じる時もあるのです。目前の状況に一喜一憂し、目的を見失い右往左往する時があれば、しっかりと目標を見据えて前進する時もあるでしょう。また、人生の海原の広大さ

と自由に気付くと、逆に何を頼りにどこに向かえばよいのかに戸惑い、孤独を感じることもさへあります。

新たな歩み出しの時を迎えた今、何を頼りにどこに向かっているのかを確認することは、とても大切なことです。そうしなければ、先行き不安で旅立つことさえできなくなります。時は常に流れ、同じ状態に留まっていられないのに、自分の殻に閉じこもりそこから歩みだすことができない凝り固まった精神状態へと陥ってしまうのです。

昨年末に始まった『聖年』は、私たちに神への立ち返りの旅路へと招くにあたつて、先行する神のゆるし(免償)を約束します。この先立つゆるし、神の受容がなければ、私たちは希望を抱くことができません。まず神が先に私たちをゆるし、私たちを信じて駆け寄り、ご自身のすべてを開き与えなければ、私たちから神を探し求めることはできないからです。

でも、希望があれば旅立てます。先行する神の愛に希望を見出し、その後押しを受けて漕ぎ出すなら、喜びと幸せに満ちた旅路を進むことができます。イザヤは預言します。神は、「疲れたものに力を与え、勢いを失っている者に大きな力を与えられる。若者も倦み、疲れ、勇士もつまずき倒れようが、主に望みを置く人は新たな力を得、鷲のように

翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れない。」(イザヤ四十・29-31)

兄弟姉妹の皆さん、人生の荒波は誰もが経験します。旅路に困難は付きものです。どんなに苦難の時が訪れようとも嵐は必ず過ぎ去ります。この嵐に堪え、この苦難を乗り越えるためには希望という錨が必要。神へのあこがれ、神への希望はどんなに荒れ果てた時空の中でも私たちを神ご自身につなぎとめ、人生の大海原を漂流することなく、豊かな旅路としてくれます。

「わたしたちが持つているこの希望(神の約束)は、魂にとつて頼りになる、安定した錨のようなものであり、また、至聖所の垂れ幕の内側に入ってゆくものなのです。」(ヘブライ六・19)

愛である神により深く錨をおろし、その結びつきを強めることで、暖かで明るい希望につつまれた信仰者の旅路は、どんな困難に出くわしても、それを乗り越えることができます。奥深い安心と喜びがその旅路のすべての行程を包み込み、すべてのことが祝福となります。

さあ、神の愛の輝きのうちに分け入る未来を目指し、希望の錨を胸に抱き、新たな時の旅へ漕ぎ出しましょう。



## 2025 New Year's Message

**“If we Anchor our Hope in God, everything will be a Blessing”**

### **Dear Brothers and Sisters of Naha Diocese,**

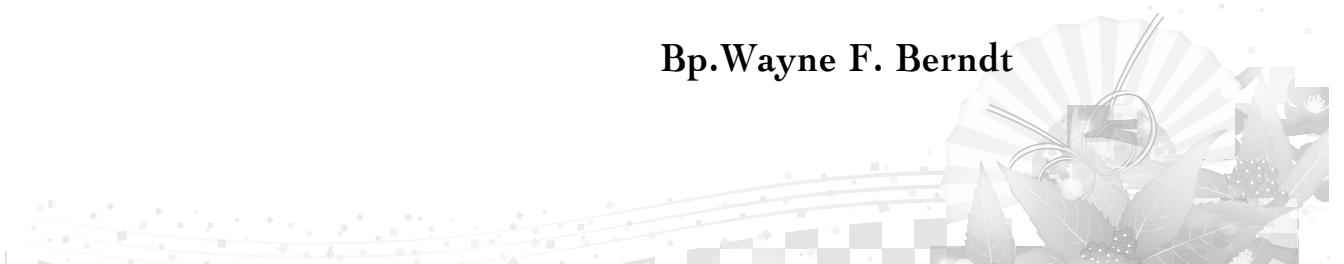
Happy New Year! As we start the year 2025, I want to wish you and your family a very prosperous new year. Every 25 years the Catholic church celebrates a Jubilee Year, which we call a Holy Year. During the Holy Year 2025 there will be events in Japan to deepen our faith and strengthen our bonds with the Lord. Your pastor will explain to you how the Jubilee Year will be celebrated in our diocese. The theme of the Holy Year is: “Pilgrims of Hope!” Pope Francis feels strongly that the world is very much in need of hope. In the Bible, 1 Corinthians 13:13, it states that there are three things that will last forever: faith, hope, and love. While we learn about faith and love, we may not know much about the virtue of hope. To have a better understanding of the virtue of hope, and in line with the theme of the Holy Year, I have chosen the words, “If we Anchor our Hope in God, everything will be a Blessing” as the aim for Naha Diocese this year.

There are two scriptural texts that are very helpful to understand the virtue of hope. The first is Hebrews 6:18-19. “We who have found safety with him are greatly encouraged to hold firmly to the hope placed before us. We have this hope as an anchor for our lives. It is safe and sure, and goes through the curtain of the heavenly temple into the inner sanctuary”. Based on this scriptural text the symbol of hope in the church has always been the anchor. A boat tossed on the sea is a symbol of the pilgrim church. It may also be interpreted as a symbol of our individual journeys. Anchoring our life in God is the only sure way to be able to survive any storms or disasters that we may encounter.

The second text is Isaiah 40:31: “Those who hope in the Lord will renew their strength. They will soar on wings like eagles; they will run and not grow weary; they will walk and not be faint.” In other words, those who hope in the Lord will be blessed in every way during their lifetimes. It does not mean that we will not have problems. But even when we have problems, God will be at our side to help us. For example, many people during the height of the Covid pandemic lost hope that things would return to normal again. But others who trusted and placed their hopes in God, knew that He would never abandon us. Anchoring our hopes in God allows us to see things and events with a different perspective. This leads us along a path of trust in God where everything becomes a blessing.

Have a wonderful New Year. May it be filled with God's love and his peace. As Pilgrims of Hope let us anchor ourselves in God and let the New Year be filled with every blessing.

**Bp. Wayne F. Berndt**



# 2024年12月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2024年12月3日(火) 10:00～12:00 於・安里教区センター

## 1. 報告及び連絡事項：司会はロドニー神父が担当。ウェイン司教が初めの祈りを唱えて開式した。

- ・前回(11月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ・出張、休暇、研修等の不在予定の報告が行われた。
- ーピーター・チェ神父、11/29～12/19、休暇。
- ーウェイン司教、12/11、東京、フランシスコ教皇来日5周年記念ミサ、四ツ谷。  
12/12、第二回臨時司教総会、潮見。  
12/20～21、菊池功枢機卿親任祝賀ミサ、東京。
- ・教皇フランシスコの要請を受けて、日本司教団が定めた「性虐待被害者のための祈りと償いの日」は、毎年四旬節・第2金曜日とされている。今年もポスターを注文するので、確実に周知し、教区のハラスメント対策宣言文と一緒に掲示し、教会全体の意識を高めるよう要請された。これに付随して、以下の注意が促された。最近様々なハラスメントに関する声が聞かれる。これに関しては、一方的な主張に基づく予断は許されないが、何らかの事実に由来することが多い。そのつもりは無くても、指導的な立場にある聖職者には厳しい目が向けられやすい。加えて言葉づかい、文化、慣習などを充分体得できていないハンディもある。これを自覚して、謙虚な心で司牧に当たるべきである。常に相手の立場に立って、相手をおもんばかって接し、安易なスキンシップや特定の個人との関わりは厳に慎むこと。また、携帯メールのやり取りも誤解を生じやすいので、司祭たちには十分気を付けて欲しいとの注意が、ウェイン司教から行われた。
- ・マーシーさんからカリタス沖縄の活動について報告がなされた。11月16日に行ったビーチクリーンの清掃作業には、メンバーの15人が参加して他の市民団体との協働で、1時間程度作業したことが報告された。また、12月には子どもも支援をしている市民団体と共に子どものクリスマスプレゼントを準備して配る予定であることが報告された。
- ・ウェイン司教から、2月11日の「教区の日」に向けて、来月の司祭会議(1/7)までに、お祝いの対象者の報告が確実になされるよう要請があった。司祭、修道者は25年と50年、信徒は夫婦とも健在で金婚の年を迎えられる方々が対象となる。

## 2. 審議事項

- ・各教会の主日とクリスマス、新年のミサ時間の報告が行われた。
- ・2025聖年の開幕式とミサの典礼についてボスコ神父から報告が行われた。12月29日聖家族の主日の午後2時から開南教会において、ウェイン司教主式のもとで執り行われる。
- ・ヨアキム神父から聖年の取組について報告が行われた。ポスターを作成してあるので、各小教区に掲示されるよう依頼がなされた。また「聖年の祈り」のカードを配布するのですべての信者に行き渡るように配り活用するよう要請があった。月別的小教区当番表を作成し、各小教区の持ち回りで祈りの当番を担当する。また、教区内の開南教会、名護教会、宮古島平良教会と石垣教会を巡礼指定教会とし、指定教会への巡礼や他教区への巡礼も計画したい旨提案が行われた。
- ・ウェイン司教から教区目標案が提示され、協議の上了承された。2025年教区目標は、「神に希望の錨をおろすならすべては祝される」に決定した。『南の光明』新年号の年頭挨拶でこの目標について説明言及する。
- ・12月28日(土)に青少年のためのクリスマス会を行うことが、担当のブイ神父から報告された。安里教会を会場に、午後1時半に集合して歌の練習や準備、2時半からミサを行って、終了後にBBQやビンゴゲームを行う予定であることが報告され、ポスターの掲示や当日の参加が司祭たちへ要請された。
- ・津波古事務局長から、延期された教会会計研修会について、年明け1月13日(月)に安里教区センターにて、午後1時から3時の日程で開催するので、各小教区から司祭、信徒会長、会計の少なくとも3人が参加するよう、強く要請された。
- ・司教予定が報告された。  
12/5、愛楽園教会の公式訪問。  
12/8、県民クリスマスの集い、胡屋バプテスト教会。  
12/15、コザ教会ミサ司式。  
12/24、開南教会、午後7時、ミサ主式。  
12/25、安里教会、午前9時、ミサ主式。  
12/28、安里教会、午後2時半、子どものクリスマス・ミサを主式。  
12/29、開南教会、午後2時、聖年開幕ミサを主式。  
1/5、コザ教会公式訪問。  
1/26、具志川教会からサントニーニョのお祝いを予定しているので、司教の参加が要請された。
- ・ウェイン司教から、ゆるしの秘跡について、信徒から要望が多く寄せられているので、司祭たちは時間を決めるなどして、信徒たちが秘跡を受けやすい環境に配慮するよう要請があった。
- ・11月に宮古島平良教会で行われた司祭会議について、司祭たちへ感想が求められ、様々な提案や意見が述べられた。訪問できなかった南静園教会について、教会堂としての活用が今後も見込まれないため、園に建物を寄贈する方向で話が進められていることが報告された。また、愛楽園についても将来的な話を進めていく必要があることも報告された。
- ・リカルド神父から、叙階25年を記念して出身のダバオで、4月30日に記念ミサと祝賀会を予定しているので、参加の呼びかけが行われた。
- ・安里修道院から専門学校に通っているシスターアイビーのご尊父が帰天され、急ぎ帰国されたので、お祈りを願う旨、ウェイン司教から要請があった。

※次回司祭助祭拡大会議は1月7日(火) 午前10時から、安里教区センターで開催される。



## 「希望」は欺かない！

ヨセフ・ブイ神父

泡瀬教会 主任司祭



幸せを、人間にも分かち合いたいと思われ、その心を人間にお与えになりましたが、このように、すべての人の心に神がともしてくださった幸福へのあこがれに應えるものが、希望の徳です。だから、キリスト教的希望は、私たちの人生を喜びで満たす神の賜物です。

信仰生活を送るうえで、わたしたちは神の恵みによつて生きていることをま

てみましょう。世界はそれ強く必要としているのです。希望は今、非常に危うい状態にあることも意識されています。戦争の状況の中で、平和への希望を持てるか？あるいは多くの国で見られる出生率の低下。そこには経済的な理由もありますが、物質主義や価値観の問題もある、まさに希望の問題だと教皇は言います。

希望を奪われた受刑者や死刑囚。あるいは病氣や障害を持った人。高齢者。多くの若者も希望を奪われている。孤独を感じたり、見捨てられたと感じて希望を失ったりする人がいる。そして世界の中に数限りなく存在している貧しい人々の現実。

このような、希望を失いそうになる現実がたくさんあるこの時代だからこそ、希望を掲げて歩む巡礼者になろう。教皇はそう呼びかけるのです。また、今年

の那覇教区の目標を、ウエイン司教様は神に希望の錨をおろすなら、全ては祝される」となさいました。司教様の説明から、この希望とは錨(いかり)です。

私たちは希望のロープに、しがみつかなければなりません。これは神に全ての希望を置くということです。私たちのもつとも確かな富は、神ご自身であり、その神に私たちの望みと信頼を置くことが、何か新しいことを

始め、それを成し遂げようとすると、それにも大切です。希望は、信仰者の生き方の方向と目的を示す、いわば指南役です。聖年の間にわたしたちは、苦しい境遇のもとで生きる大勢の兄弟姉妹にとつての、確かな希望のしるしとなるよう求められます。神の愛が注がれているから、苦難が「希望」に変わる。人間の力では変えられないことが神の愛によつて、苦しいことが「希望」に変えられてくる、あるいは苦しいことを乗り越えていく解決方法とか、乗り越える力とか、そういうことが与えられるということです。

「世の中にあつて希望とは、経済的に豊かになる、名声を得る、快楽を得ることなどであることが多いです。しかし私たちの希望はそれらにはるかに勝る希望です。

それは永遠のいのち、イエス・キリストと一つになることです。

一般に希望とは、何か素晴らしい物事を願うことですが、実現するかどうかは定かではありません。この場合の『希望』は『それが実現する』という一つの『願い』に過ぎません」と教皇様は指摘します。「たとえば、『明日は晴れるといい』と願っている、私たちは実際にはそうはならない可能性も知っています。これに対して『キリスト教的希

望』とは、すでに完成した出来事で、私たち一人ひとりに確かに実現する出来事を持つこと、なのです」とも説かれています。

そして「キリスト教的希望」を「そこに扉があり、その扉にたどりつくのを願うこと」と喩えられ、「わたしたちのすべきことは、その扉に向かって歩くことであり、わたしたちはそこに扉があることを確信している」と話されました。

心に主との出会いへの希望を抱くことで、私たちは、日々の小さな苦勞が決して無駄にならないことを知っています。私たちは、「平和と正義と愛を生きる新たな世界」に向かって、毎日巡礼者として一歩を刻んでいきます。「希望の道」の本で枢機卿 Angelo Scola は「キリスト者は、闇の中の光であり、人生にもはや味がなくなっているところで塩であり、望みを失った人類のただ中での希望であります」と書いています。だから、一人一人が洗礼を受けてからの長さに関係なく、互いに希望を持ち、福音的に生きる、互いに愛しあう、そういうった生活を行うことを、今年の聖年で頑張らしましょう。

この聖年が私たちの信仰を強め、復活のキリストを生活のただ中で見出す助けとなり、私たちキリスト者を希望に満ちた巡礼者に変える力となりますように。

二〇二五年は通常聖年として、特別に神さまの恵みに与る年となりました。教皇フランシスコは「希望は欺かない」というメッセージを全世界に送りました。

「希望」は聖年のキーワードです。ご存知のように、『カトリック教会のカテキズム』では、希望は対神徳の一つであり、キリストが私たちにしてくださった、「天の国」と「永遠のいのち」に生きるという約束に信頼し、聖霊の恵みの助けに寄り頼みながら、天の国と永遠のいのちを待ち望む徳です(1181)。

神様は、人間を創造されたと

き、ご自分が味わっておられる

ません。主イエス・キリストこそ恵みです。すべての恵みは、主イエス・キリストを通してわたしたちにもたらされたのです。そして、わたしたちは神の恵みによつて与えられた信仰、希望、愛のうちに、神とのさらなる交わりと一致を生きるように招かれていくのです。信仰、希望、愛は神の恵みによつてわたしたちのうちに育まれる徳で、対神徳と言われています。しかし、今日の世界と私たちの国々を見

親愛なる皆様、あけましておめでとうございます。

先日、末娘がクララ幼稚園の年長さんとして、聖劇を演じてくれました。聖劇で、天地創造とイエス様の誕生が描かれますが、太陽、月、星、野の花、動物、水、魚、鳥に至るまで、皆、神様に造られた仲間たちです。神様との約束を破り、エデンの園を追われた人間達に、いつか救いの子が送られるという希望で天地創造を終えました。私の娘は、イエス様の誕生で、マリヤに嬉しいお知らせを告げる大天使ガブリエルを演じていました。「幸

## たて軸よこ軸 クリスマスから聖年へ 神性を体現する年

与那原教会

城間

吉主よしきみ

繋がっていきます。

教会のお正月で印象に残っているのは、いつだったか忘れていますが、新年ミサの聖体拝領で、ぶどう酒を飲ませていただいた事です。何やらいつもと違うお正月のセッティングに聖杯が置かれ、ぶどう酒が入っているらしい。「え？ ぶどう酒飲めるの？ 本当に？」なんてワクワク、ドキドキしながら並んだ聖体拝領。パンをいただいたあと、聖杯の前に来て「これをわたしの記念として行いなさい」という言葉に、厳密には、ぶどう酒も含まれる

りが感じられません。安全祈願シールのデザインは、シンプルながらも、カトリックの信仰を表すものとなっており、毎年、どんなデザインになるか楽しみにしています。息子と話し合ったところ、「自転車にも欲しい」と言っていたので、神父様、ぜひ、息子の自転車にも祝福を下さいませ。(自転車で新年ミサに来させる様にいたします。)例年、車の安全祈願シールは、一台一台、丁寧に祝福してくださるので、かなりの時間がかかっていたイメージでした。賛否両論あると思いますが、昨年あたりから、神父様の工夫で早く祝福がいただけるようになって、本当に良かったと思います。

昨年の短冊は、「神よ慈しみと祝福をこの家に」とあつて、我が家に飾られていました。今年の短冊は「主に希望をおく者は、決して欺かれることはない」という、

教皇様の聖年の教令からのお言葉になりました。短冊は年間を通して、家庭のよく見る場所に掲げられるかと思えます。その時に、信仰の本質に立ち返ることのできる言葉があるのは、本当に心強いことです。

この原稿の執筆にあたり、「たて軸・よこ軸」というタイトルの意味を考えました。たぶん、どなたかがちゃんと定義して下さっているとは思いますが、私なりの考えで、「たて軸」は信仰、「よこ軸」は被造物、と思っ

す。イエス・キリストの名の下に集まる私達が貫くべき柱は「互いに愛し合いなさい」という信仰で、横に広がる仲間たちは、世界の全てと考えます。先ほどの聖劇の話に戻りますが、太陽も月も生き物も野の花もすべて、神様が造られたもの。だから、互いに愛し合い、この世界を創っていかねければなりません。私たちの日々の行いが、世界を造る神様の業と考えれば、「神様にできない事はありません」という言葉の真の意味が見えてくるかと思えます。私達ひとりひとは、無力ですが、心から神に立ち返り、「互いに愛し合いなさい」という信仰を貫く事で、神性を体現する事ができます。弱きを助け、悲しみを癒し、飢えから救い、苦しみを分け合うことで、世の困難を乗り越えて行こうではありませんか。

新しい年に神様と約束し、カトリック教会の私たちの結束がより高まる事を祈りながら、結びといたします。



覚えて、堂々と演じていました。マリヤが「私が神様の子を産むのですか？」という問いに対して、「神様にできない事はありません」と返します。「全能の神」という概念は私達、信仰でつながる者がしつかりと覚えておきたい信念です。

また、今年、小学校六年生になる息子は過去の聖劇で博士を演じましたが、一月は「主の公現」として、博士たちがイエス様の馬屋にたどりついた事を祝う期間にもなっています。続いて、「主の洗礼」で、洗礼者ヨハネからイエス・キリストが洗礼を受けたエピソードに

のかしら？ などと思いつつ、さて、どんなお味なのかしら？ と俗物的な考えがよぎり……。一口いただいたぶどう酒(御血)の美味しかったこと。たぶん、二度目の初聖体ですね。思い起こせば、初聖体の子ども達の気持ちがよくわかる様な気がしました。でもこの時の私には、「主の御血をいただく」という「本筋」はスッカリ抜け落ちていたと思います。(反省)。

教会の新年といえば、車の安全祈願とシール、それに新しい短冊も欠かせません。これがないと新しい年の始まり



## 希望は欺かない—2025 年の通常聖年公布の大勅書

「希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。」(ロマ書 5:5)

2024 年 12 月 24 日にバチカンのサンピエトロ大聖堂の聖なる扉が開かれて開幕し、2026 年 1 月 6 日の主の公現の祭日に同扉が閉じられ閉幕する通常聖年。この聖年を公布する大勅書において教皇フランシスコは、聖年を、神の恵みから希望を受け、神へと向かう歩みを強めていただく機会とするとともに、困難にある多くの人に希望をもたらす者となるよう招いています。



左のロゴマークは、地球の四方から集まってきた全人類を、四人の図案化された人物によって表現しています。彼らは抱き合っていて、すべての民を結びつける連帯と友愛を示しています。先頭の人物は十字架をつかんでいます。それは、抱いている信仰のしるしであるだけでなく、捨て去ることのない希望のしるしでもあります。なぜなら、希望はいつでも、そして深く困窮しているときにはとくに、求められるものだからです。

人物の下に押し寄せる波は、人生の旅がいつも穏やかな歩みであるとは限らないことを示しています。個人的な出来事や世界に起きていることの多くは、より強く希望を求めさせるものです。ですから、長く伸びて、錨の形に変わって波に下るされている、十字架の下部が強調されているのです。ご承知のとおり、錨は希望の比喻としてよく用いられます。事

実、船乗りの符牒では、嵐の際に船を安定させるため、緊急発動するボートによって投錨される予備の錨のことを「希望の錨」といいます。

このロゴが表すものとして見逃してはならないのは、巡礼の旅は個人的なものではなく共同体的なもので、よりいっそう十字架へと向かっていくダイナミズムを備えたものだということです。この十字架は、静的ではなく動的なものです。人類を捨て置かず、人類に向かって身を伸ばして、存在の確かさと全き希望とを与えてくださるのです。

ロゴの下部には、2025 年の聖年のテーマ「希望の巡礼者」が、緑の文字で鮮やかに記されています。

2025 年聖年の間、各教区の司教座聖堂や、教区司教によって指定された教会・聖堂を訪問することで、免償を得ることができます。(免償の解説や、今回の免償に関する教皇書簡は中央協議会ホームページを参照してください)

那覇教区では以下の教会が指定教会となっています。

・那覇カテドラル開南教会・名護教会・宮古島平良教会・石垣教会

※巡礼指定教会を訪れて免償を得るためには「ゆるしの秘跡」が条件になります。

巡礼のため指定教会を訪れる際は、主任司祭の所在を事前に確認してください。

## サントニーニョ祭のお知らせ（具志川教会）



20 YEARS of Celebrating the fiesta of Señor Santo Niño  
Theme : Celebrating Two Decades with Hope and Gratitude  
**希望と感謝で二十年を祝う**  
We joyfully invite you to join us in celebrating 20 years of unwavering faith and devotion to Señor Santo Niño.

**Date : January 26, 2025**  
**令和 7 年 1 月 26 日**  
**Time : 10:00 am Holy Mass**  
**午前 10:00 ごミサ**  
**Venue : Gushikawa Catholic Church**  
**カトリック具志川教会**

**Novena Mass : January 17-25, 2025/ 7:00 pm**  
**January 19, 2025 ( Sun ) / 9:30 am with Bp Berard Oshikawa**  
**Feast Day : January 26, 2025/ 10:00 am**  
**Most Rev. Wayne Francis Berndt**  
**O.F.M. Cap. , Bishop of Naha**

*Let us come together as one family in faith, hope and gratitude. Viva Señor Santo Niño!*

Lunch Ticket : 1000 円

*After the Mass, Lunch and Entertainment will follow*



## 本の紹介

社会司教委員会は、書籍『すべてのいのちを守る教会をめざして — ハンセン病問題過ちを繰り返さないために』を発行しました。

すべてのいのちを守る教会をめざして

ハンセン病問題過ちを繰り返さないために

## 那覇教区子どもと女性の権利を擁護するデスク

相談窓口 ☎098-863-2020（火・水・木 13:00～17:00）

## 計報

◆愛楽園教会 パウロ 鹿川 幸三 様  
2024年12月19日帰天 享年89

## オンライン版『教会の祈り』について

2024年11月25日  
日本カトリック典礼委員会

従来「教会の祈り」は「聖務日課」とも呼ばれて、聖職者や修道者固有の祈りのように思われてきました。しかし、第二バチカン公会議の典礼刷新によって、キリストを頭とする教会共同体が、祈りを伴って時間（生活）をささげる奉仕であることが強調され、「時課の典礼」（Liturgia Horarum）と改称されました。

祈り』は、日々の生活の中で、キリストとともにささげる奉仕の祈りに、よりいっそう可能な範囲で、親しんでいただくための補助的な手段です。

ラテン語規範版「時課の典礼」は4巻本として編集されていますが、日本の教会では、この規範版に従う『教会の祈り』4巻本の出版を目指していく過渡的な段階にあります。このたびのオンライン版の公開は、そのための出版準備となるものです。また、オンライン版『教会の祈り』は、新しい「ミサの式次第」に準拠した式文や聖人名の新しい表記、随時追加されていく新しい聖人等の結びの祈願などを、（書籍版）『教会の祈り』に補足する役割を担うものでもあります。

「教会の祈り」を一緒に唱える際、司牧的配慮やさまざまな理由から、書籍版とオンライン版の併用は避けられないかもしれませんが、教会共同体でこの伝統的な祈りを唱える典礼祭儀においては、書籍版の使用が望ましいことを、共通理解として大切にしていきたいと思っています。

オンラインで公開されるデータは、おもにスマートフォンでの利用を配慮して編集されています。そのため、その他の端末を利用する場合、表示画面がディスプレイにうまく収まらないことがあるかもしれませんが、ご理解をいただきたいと思います。なお、簡単なオンライン版『教会の祈り』利用ガイドを準備いたしますので、参照していただければ幸いです。このオンライン版『教会の祈り』が、利用者の皆様の「祈りの友」となることを願いつつ、以下のURLから、無料でアクセスできます。

URL: <https://inor.catholic.jp>



## キリスト教一致祈禱週間

2025年1月18日～25日

あなたは このことを信じますか (ヨハネ11・26参照)

Do you believe this ? (John 11:26)

コンスタンチノーブル近郊のニケアで最初の公会議が開かれてから1700年目

2025年のキリスト教一致祈禱週間は、2025年1月18日(水)～25日(水)、全世界で行われます。今回のテーマは、「あなたは このことを信じますか」(ヨハネ 11・26)です。2025年は、コンスタンチノーブル近郊のニケアで最初の公会議が開かれてから1700年目にあたります。これを記念することは、キリスト者の共通の信仰を振り返るために極めて意義深いことです。そこで、2025年の「キリスト教一致祈禱週間」は、キリスト者がこの生きた信仰の遺産をあらためて探求し、現代の文化に沿ったかたちで再解釈することを目的とし、ニケア公会議とその決定に至った聖書的土台と教会の経験を、祈りのうちに深める機会としたいと思います。ニケア公会議を記念するこの年、キリスト教一致祈禱週間におけるエキュメニカル礼拝は、信じることの意味、さらに「わたしは信じます」と「わたしたちは信じます」という、個人または共同体としての信仰の確認を中心に行われます。日本でも、世界に広がる教会と心を合わせてキリスト者の一致を祈るため、カトリック中央協議会と日本キリスト教協議会が共同で翻訳した資料を小冊子『キリスト教一致祈禱週間』として発行し、ポスターとともにご案内しています。

1月

一日黙想会へのご案内

指導司祭：ナビン神父 (普天間教会主任)

テーマ：聖書に親しむ

日時：2025年1月11日(土) 受付 9:30

講話：10:00～11:00

休憩：11:00～11:15

個人黙想：11:15～12:15 (ゆるしの秘跡・希望者)

昼休み：12:15～13:00

分かち合い：13:00～14:30

ミサ：15:00～16:00

※持参するもの 聖書・弁当・飲み物・会費500円  
聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会  
連絡先：098-945-2354 098-945-8649



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30～17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



葬祭の  
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向  
を最優先に考えます。何でもご  
相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>

E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間  
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～  
そうてんしゃ

葬 典 社

\*創業30数余年・・・。

\*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるための  
お手伝いをさせていただいております。

\*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひ が たかしげ  
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間  
受付

てんごく

☎098-853-1059

